

技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	安全・防災 インフラDX 維持管理 環境 コスト 品質 （該当分類に○を付記）
技術名称	データ連携基盤 (SVCompass)
NETIS登録番号	担当部署 開発統括部 新領域推進室
社名等	担当者 三ヶ尻 祐司
	電話番号 092-412-6700
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 ・データの分散と統合分析の困難さ: 自治体が保有する多様なデータ(人口統計、ハザードマップ、インフラ台帳・点検結果等)が分散管理されており、統合的な可視化や分析が困難でした。 ・従来型GISのハードル: 既存の地理情報システム(GIS)は操作に専門知識を要し、職員間や市民との円滑な情報共有における課題となっていました。 ・開発の契機: 上記の課題を解消し、データを一元管理・可視化することで、多角的な地域課題の分析と「データに基づく政策決定(EBPM)」を支援する仕組みが求められたため、本システムの開発に至りました。 2. 技術の内容 ・データ一元管理のWebアプリケーション: オープンデータや統計データに加え、自治体独自のデータ(台帳、センサー、カメラ映像等)をクラウド上で一元管理し、ダッシュボード化するシステムです。 ・専門知識不要の直感的な操作: 複雑なGIS操作を必要とせず、ブラウザ上の簡単なステップ(データの選択と設定)のみで、グラフや3Dメッシュマップ等を直感的に構築・可視化できます。 ・プラグインによる高い拡張性: 単なる可視化にとどまらず、シミュレーション、AI予測、避難所圏域における人口集計といった高度な分析機能を、プラグインとして段階的に追加可能です。 3. 技術の効果 ・庁内、事業者間の連携強化: 専門知識を持たない職員や委託事業者であっても直感的に操作できるため、リアルタイムなデータ連携や情報共有が容易になります(作成したマップ等の共有範囲は、課内・部内など細かく設定可能です)。 ・新たな地域課題の発見: 「地域特性」「都市機能」「防災」など、異なる分野のデータを重ね合わせて可視化することで、単一データでは見えなかった地域課題の分析が可能となります。 ・住民サービス・防災意識の向上: 構築したハザードマップ等の特定情報を「Web公開型GIS」として市民へ直接公開でき、住民サービスおよび防災意識の向上に寄与します。 4. 技術の適用範囲 ・まちづくり、防災、交通、インフラ維持管理など、幅広い分野の個別アプリケーションとして適用可能です。 ・庁内(各部署間、全体)におけるデータ連携基盤としての活用や、市民向けの情報公開プラットフォームとして適用可能です。 5. 活用実績 自治体 1 件 (九州 1 件[立地適正化計画における基礎集計および可視化ツール])

Social Value Compass「SVCompass」

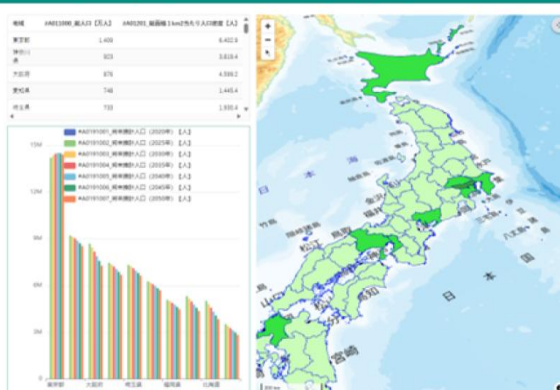
地域のデータを集約・可視化し データに基づく「政策決定」を支援



直感的な可視化：3Dメッシュ・マップ



3Dメッシュマップによる将来推計分析



市内共有マイダッシュボード

統計・オープンデータとの統合

自治体の独自データに、人口統計、ハザードマップ、3D都市モデルを重ね合わせ、多角的な課題分析を実現します。

専門知識不要のダッシュボード

複雑なGIS操作は不要。ブラウザ上でグラフやマップを直感的に構築し、リアルタイムで共有・市民公開も可能です。

多様なデータの一元管理：データ連携基盤



問い合わせ先 (株)福山コンサルタント
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-6-18

窓口：新領域推進室 国分、新堀、高澤
連絡先：kokubu@fukuyamaconsul.co.jp

FUKUYAMA
CONSULTANTS
CO.,LTD.